

発掘調査の概要

藤原京右京七条二坊・四分遺跡の調査

(飛鳥藤原第192-2次)

2017年5月31日から約1ヶ月間、橿原市飛驒町で宅地造成にともなう発掘調査をおこないました。調査地は、藤原京右京七条二坊東北坪に位置し、弥生時代の集落遺跡である四分遺跡にもあたります。

調査の結果、藤原京期の遺構は削平されて残っていませんでした。いっぽう、弥生時代の遺構は調査区南辺で検出した東西大溝をはじめ、掘立柱建物、柵列、土坑、溝等がみつかりました。東西大溝は、幅2.6m以上、深さ1.3m以上の大きな溝です。このほか、建物と思われる柱穴や土坑等が濃密に存在し、調査区周辺に建物等が複数存在することをうかがわせます。

出土遺物には、弥生時代中期から後期の土器とともに、石包丁や磨製石斧、打製尖頭器、石鏃等がみられます。また、サヌカイト剥片や砥石が出土することから、集落内での石器製作も推測されます。

これまでの四分遺跡の調査では、今回の調査区の北方150～300m付近で弥生時代中期から後期の竪穴建物、掘立柱建物や水田等がみつかり、四分遺跡の中心部と考えられてきました。今回の調査区は少し南に離れていますが、集落域の一部と考えて良いでしょう。四分遺跡の集落域の広がりや変遷、今回検出した東西大溝の性格等については、今後の周辺の調査成果を待って慎重に検討する必要がありますが、弥生時代の四分遺跡を復元するうえで貴重な手がかりを得ることができました。

(都城発掘調査部 張祐榮)



調査区南辺の東西大溝(南西から)